

【2日目/5月23日(つづき)】

由布島の「ちょう園」には何種類かのチョウがいます。しかし、わざわざちょう園に行かなくても、島には何種類ものチョウが飛んでいるのを見ることができました。



「アサギマダラ」は本州の高原でもよく見かけます。しかし「リュウキュウアサギマダラ」や「オオゴマダラ」は一度も見たことがないチョウです。私はチョウにはあまり興味がない…というよりは昆虫そのものがやや苦手なのですが、この「オオゴマダラ」だけは見ておきたいと思っていました。



これが「オオゴマダラ」です。餌の蜜のところには群がっていました。オオゴマダラ *Idea leuconoe* は、「タテハチョウ科」のチョウで、日本では奄美の喜界島、与論島以南の南西諸島(鹿児島・沖縄)にのみ分布しています。翅を開くと 13~14cm にもなり、日本のチョウとしては最大級です。ヒラヒラと優雅な飛び方をするので、「南国の貴婦人」の異名もあります。石垣島でも与那国島でもよく出会ったチョウです。



蛹(さなぎ)も実に美しいです。葉からぶら下がったオオゴマダラの蛹も展示されていて、まるで「黄金の蛹」のようです。羽化の一瞬を見たかったのですが、残念ながら出会えませんでした。オオゴマダラは気温や餌などの条件を揃えれば、比較的閉鎖された空間でも飼育・繁殖が容易で、さまざまな施設(昆虫園など)で飼育されているのだそうです。



約2時間の昼食+自由時間を終えて、また水牛車に乗って、西表島側に戻ります。昼食時にオリオンビールをあおった団体サンもいて、皆さん結構陽気になっていました。



帰りの水牛車は、行きよりも時間がかかります。水牛が言うことを聞かないのです。2・3歩進んだかと思えば立ち止まります。御者さんも「オイっ!」とか「ホレっ!」とか、頻りに櫓を飛ばしていました。



遊覧船を楽しんだ「仲間川」の河口付近も、大潮の干潮時になりすっかり干上がっていました。この日は午後の遊覧船は運行できないということでした。



西表島にもレンタカーはあります。その名も「やまねこレンタカー」レンタカー屋さんの係の人は、もちろんヤマネコではなく人間です。借りるのもヤマネコではなく人間です。今回、このレンタカーを借りようと思ったのですが、西表島は一周道路が未完成で、車で見て回るほど見どころもないので、やめておきました。万が一特別天然記念物のイリオモテヤマネコを轢いてしまったら大変！という心配もありました。



午後1時頃、仲間港に戻ってきました。行きと同じ「うみかじ号」に乗ります。西表島発の高速船は、ほとんどが石垣島直行なのですが、一日一本だけ、竹富島経由があり、私が乗ったのはそれでした。



ほどなく「竹富島」が見えてきました。高い土地がまったくない島なので、どこから見ても平べったく見えます。



竹富島は古い沖縄の街並みの景観、それに石垣島から高速船で10～15という便利さから、観光客に非常に人気があります。この日も船着き場は多くの観光客で賑わっていました。私が乗ってきた船からは20人ぐらいが下船しましたが、この船は石垣島への直通なので、100人ぐらいの人が並んでいました。もともとかなり混んでいたのが、乗り切れない人がいたのではないかと心配になりました。



小さな島ですが、港はよく整備されています。ターミナルの観光案内所では島の地図がもらえるし、売店も営業していてとても助かりました。